



経営継承・発展等支援事業 取組事例集



令和 7 年 6 月

農林水産省

はじめに

本事例集は、これまでに経営継承・発展等支援事業を活用し、作業の省力化・効率化、新品種の導入、販路拡大など、経営継承に合わせて様々な取組を行った後継者の取組事例をご紹介します。経営継承予定の方、経営を継承された方々で新たな取組にチャレンジしたいとお考えでしたら、本事例集を参考に事業への応募をご検討ください。

経営継承・発展等支援事業について

➤ 本事業の概要

本事業は、農業者の一層の高齢化と減少が急速に進むことが見込まれる中、将来にわたって地域の農地利用等を担う経営体を確保するため、国と市町村が一体となって、地域計画に位置付けられ、地域の担い手から経営を継承した後継者等が行う、経営発展の取組を支援するものです。

➤ 支援対象

地域計画に位置付けられ、地域農業の担い手※である先代事業者（個人事業主または法人の代表者）からその経営に関する主宰権の移譲を受けた後継者等（親子、第三者など先代事業者との関係は問いません）

※ 地域農業の担い手とは、市町村長が地域農業の維持・発展に重要な役割を果たすと認めた認定農業者又は認定農業者に準ずる者をいいます。

➤ 要件

1	次の（ア）から（オ）までに掲げる者であること。 （ア）地域計画のうち目標地図に位置付けられた者 （イ）今後目標地図に位置付けられることが見込まれる者 （ウ）認定農業者 （エ）認定就農者 （オ）その他市町村長が地域農業の維持・発展に重要な役割を果たすと認めた者
2	（個人の場合）令和6年1月1日から経営発展計画提出時までに先代事業者からその経営に関する主宰権の移譲を受けていること （法人の場合）※経営継承と同時に法人化した場合も含む ・次に掲げる（ア）又は（イ）の要件を満たすこと。 （ア）法人の経営の主宰権を先代経営者から移譲を受ける場合：当該法人が地域農業の担い手であり、令和6年1月1日から経営発展計画を提出する時までに後継者（個人）が当該主宰権の移譲を受けていること （イ）先代事業者からその経営に関する主宰権の移譲を受けると同時に農業経営の法人化を行う場合：当該先代事業者が地域農業の担い手であり、令和6年1月1日から経営発展計画を提出する時までに当該主宰権の移譲を受けていること
3	主宰権の移譲に際して、原則として、先代事業者が有していた生産基盤や経営規模等が著しく縮小していないこと
4	青色申告者であること
5	家族農業経営である場合にあっては、家族経営協定を書面で締結していること
6	経営発展計画を策定し、当該経営発展計画に基づいて経営発展に取り組み、かつ、当該経営発展計画の達成が実現可能であると見込まれること 等

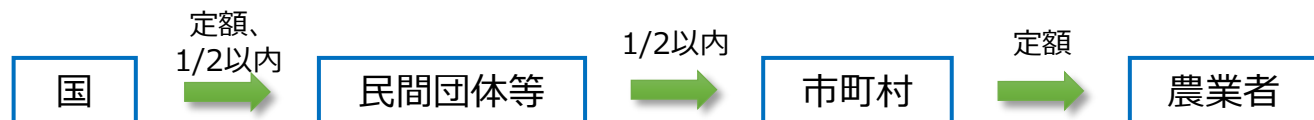
※ 詳細は、全国農業会議所及び農林水産省のHPに掲載の各種資料をご確認ください。

➤ 支援内容及び事業の流れ

国の補助率：1/2以内

補助上限額：100万円（国と市町村が1/2ずつ負担）

※ 市町村が後継者の経営発展に向けた取組に必要な事業費の2分の1（上限50万円）を負担する場合に限って実施（申請額が100万円を下回る場合、例えば申請額が80万円であれば、国が40万円、市町村が40万円を負担）



➤ 経営発展の取組及び具体例（様々なチャレンジに活用できます）

取組	具体例（下記のような取組に利用できます）
法人化	経営継承を機に、法人化するため、登記費用に活用したい
新たな品種・部門等の導入	新しい作物の栽培に挑戦するため、種子及び資材を購入したい
認証取得	食品の安全性向上と経営の改善のため、GAP認証を取得したい
データ活用経営	栽培方法の改善に取り組むため、栽培管理ソフトの導入をしたい
就業規則の策定	従業員のワークライフバランス向上のため、就業規則の策定を社労士等へ相談したい
経営管理の高度化	経費分析による経営改善を行うため、会計ソフトの導入をしたい
就業環境の改善	圃場での作業環境をより良くするため、移動式トイレを導入したい
外部研修の受講	農場管理者育成のため、外部研修を受講したい
販路開拓	ECサイトを立ち上げるため、サイトデザインの外注をしたい
新商品開発	規格外品を活用した加工品を試作やテスト販売をしたい
省力化・業務の効率化	効率化のため、スマート農業機械の導入をしたい
規格等の改善	商品の認知度向上のため、包装デザインを新しくしたい
防災・減災の取組の導入	BCP（事業継続計画）策定のため、コンサルタントに相談したい

➤ 補助対象経費

専門家謝金、専門家旅費、研修費、旅費、機械装置等費、広報費、展示会等出展費、開発・取得費、雑役務費、借料、設備処分費、委託費、外注費

➤ 本事業に関する問合せはこちら

- 一般社団法人全国農業会議所（経営継承・発展等支援事業 補助金事務局）
〒102-0084 東京都千代田区二番町9-8 TEL：03-6910-1124
本事業HP：<https://keisyou-hatten.maff.go.jp/>
- 農林水産省 経営局 経営政策課
〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1 TEL：03-6744-2143
本事業HP：https://www.maff.go.jp/j/keiei/keieikeisyou_hatten.html

目次

〇令和3年度の実施事例

事例	都道府県 市町村	継承者	営農 類型	経営発展の実施内容	頁
事例 1	滋賀県 野洲市	Mさん	果樹	・収益向上のための梨の新品種導入 ・梨園への栽培用2段棚と灌水設備の設置 ・新商品（ハチミツ巣蜜）の開発 ・社労士による就業規則の策定	P 5
事例 2	北海道 東神楽町	Kさん	酪農	・データ活用のための足首装着式歩数計測装置 の導入 ・牧草作業の省力化機械の導入 ・休憩室への暖房器具の導入	P 6
事例 3	福岡県 古賀市	Aさん	採卵養鶏	・直売所へのバーコード付きレジの設置 ・作業場への空調設備の設置	P 7
事例 4	愛知県 豊川市	Yさん	施設花き	・バラの耐病性品種の導入 ・産直会員登録による販路拡大 ・社労士による就業規則の策定	P 8
事例 5	北海道 沼田町	Sさん	水田作	・省力化のための肥料散布機の導入 ・経営・栽培管理システムの導入	P 9

〇令和4年度の実施事例

事例	都道府県 市町村	継承者	営農 類型	経営発展の実施内容	頁
事例 6	栃木県 大田原市	Mさん	施設野菜	・栽培環境改善のためのハウスへの循環扇の導入 ・作業時間軽減のための電動噴霧器の導入 ・労働環境管理のためのタイムレコーダーの導入 ・作業環境改善及び品質保持のための空調設備 の設置	P10
事例 7	北海道 共和町	Uさん	露地野菜	・効率化のための籾乾燥機の導入 ・生産管理システムの導入 ・会計処理ソフトの導入 ・気候変動対策のための新品種（メロン）の 導入	P11
事例 8	福岡県 久留米市	Nさん	露地野菜	・新品種導入に必要な機械の導入 ・品質向上のための人参洗浄機の導入 ・梱包袋のデザイン・規格の一新	P12
事例 9	北海道 幕別町	Iさん	畑作	・自動操舵システムの導入 ・仮設トイレの設置 ・災害対策として倉庫への消火器設置	P13

目次

〇令和5年度の実践事例

事例	都道府県 市町村	継承者	営農 類型	経営発展の実践内容	頁
事例10	北海道 新十津川町	Tさん	水田作	・ 溝掘機と大豆選別機の導入 ・ 営農管理システムの導入 ・ 有機畑作に関する研修への参加 ・ 社労士による就業規則の策定	P14
事例11	富山県 射水市	Mさん	酪農	・ 新たに子牛生産・販売するための子牛ゲージ及び給餌バケツの導入 ・ 乳房炎測定機の導入 ・ 牛床マットの整備及び飼料運搬車の導入 ・ 繁殖管理のための監視カメラの導入 ・ 牛舎への送風機の導入	P15
事例12	北海道 芽室町	Tさん	畑作	・ 自動操舵システムの導入 ・ 衛星画像（育成マップ）の取得 ・ J-GAP認証の取得 ・ 乾燥工場への消火器設置	P16
事例13	長野県 富士見町	Kさん	施設野菜	・ 天候や作業データの管理・分析システム導入 ・ 土壌消毒機とロータリー畝立整形機の導入 ・ 社労士による就業規則の策定	P17

事例1：滋賀県野洲市 Mさん 【法人/果樹】

法人化	品種導入	認証取得	データ経営	就業規則	経営管理	就業環境	外部研修	販路拡大	新商品開発	省力化効率化	規格改善	防災減災
-----	------	------	-------	------	------	------	------	------	-------	--------	------	------

経営概要



- ◇ 継承時の年齢 : 41歳
- ◇ 経営規模 : 梨 68a、柿 45a、ぶどう 14a、その他 25a、ミツバチ 40群
- ◇ 従業員数 : 役員 2名、常時雇用者 9名

継承までの経緯と課題

- ・ 父親は代々受け継がれていた果樹農家で、幼い頃からそれを見て育つ。30歳の頃から本格的に栽培や経営を学び、令和3年に父親から事業継承。
- ・ 収益の向上のため、規模拡大だけではなく、新技術・新品種の導入等による作業効率の改善が必要だった。
- ・ 現生産物を活用した新商品の開発により、収益性を向上させる必要があった。
- ・ 規模拡大に伴う雇用者の増加を検討する中で、労働環境改善の必要性を感じた。

経営発展の取組

○ 新品種の導入・省力化の取組

- ① 梨の新品種「あきづき」・「甘太」を導入するとともに、作業の省力化・早期成園化のため2段棚を導入。新植後3年目から収穫開始できた(通常7年後頃から)。
- ② 作業の効率化のため、灌水設備を新たに導入。高温対策にも活用でき、良品質・安定生産に繋がった。



2段棚（ジョイント栽培）



灌水設備

○ 新商品の開発

- ・ 新たにミツバチ巣蜜を商品化。出荷先の百貨店での売り上げも好調で、収益が向上した。



商品化された「巣蜜」



ミツバチの巣箱

○ 就業規則の策定

- ・ 社労士に相談し、就業規則を策定。従業員の労働環境の改善が図れた。

取組の効果

- ・ 付加価値額 : 約1,400万円（継承時） → 約2,000万円（R6年）
- ・ 経営面積 : 約150a（R3年（事業実施前）） → 約190a（R6年）



継承者Mさん

- ・ 近隣地区から樹園地の拡大が望まれていることから、放棄田等を引き受け樹園地に開拓するなど、経営面積を拡大させ、地域の受け皿として農地の保全を図っていきたい。
- ・ 農業大学校生の研修の受け入れや新規就農者への技術指導を通じて、雇用者の増加や人材育成を目指します。

事例2：北海道東神楽町 Kさん 【法人/酪農】

法人化	品種導入	認証取得	データ経営	就業規則	経営管理	就業環境	外部研修	販路拡大	新商品開発	省力化効率化	規格改善	防災減災
-----	------	------	-------	------	------	------	------	------	-------	--------	------	------

経営概要

- ◇ 継承時の年齢 : 43歳
- ◇ 経営規模 : 酪農・ホルスタイン 450頭、黒毛和種 3頭
- ◇ 従業員数 : 役員 2名、常時雇用者 9名

継承までの経緯と課題

- ・ 娘婿として、20年間牧場の業務に従事。個人事業から法人化に伴い、令和3年に義父より事業を継承した。
- ・ 規模拡大により、牧草地の面積を増やしてきたが、作業に時間を要し、作業効率の改善が求められていた。
- ・ 雇用者の増加に伴い、働きやすい職場環境の整備が必要だった。

経営発展の取組

○ データ管理・省力化の取組

- ① 牛の発情状態をデータで把握をできるようにするため、発情検知用の歩数計を導入。発情発見の見逃しが減り、妊娠率の向上に繋がった。
- ② 牧草作業のために、一台で集草・反転等の作業ができるツインレーキや牧草運搬用のロールハンドの導入により、作業が大幅に効率化され、農作業の省力化が実現。



牛に装着された歩数計



牧草の反転・集草に使われるツインレーキ



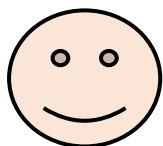
牧草ロールの運搬に使われるロールハンド

○ 就業環境改善の取組

- ・ 従業員の休憩室を増改築にあわせ、大型の暖房設備を導入。

取組の効果

- ・ 付加価値額 : 約8,600万円（継承時） → 1.17倍（R5年）
- ・ 飼養頭数 : 約450頭（R3年（事業実施前）） → 約480頭（R5年）



継承者Kさん

- ・ ホルスタインや黒毛和種の増頭を目指します。
- ・ 職員の方が働きやすい職場の環境の構築に力を入れて取り組みます。

事例3：福岡県古賀市 Aさん 【法人/採卵養鶏】

法人化	品種導入	認証取得	データ経営	就業規則	経営管理	就業環境	外部研修	販路拡大	新商品開発	省力化効率化	規格改善	防災減災
-----	------	------	-------	------	------	------	------	------	-------	--------	------	------

経営概要

- ◇ 継承時の年齢：39歳
- ◇ 経営規模：卵用鶏 15,000羽
- ◇ 従業員数：役員 4名、常時雇用者 7名



継承までの経緯と課題

- 昭和30年に祖父が養鶏場を開始。令和3年の法人設立に合わせて、父より事業を継承。3代目として経営改善に取り組む。
- 規模拡大に合わせた地域の雇用の拡大と労働環境の改善が求められていた。
- 地域の農業者が生産した農産物の販売ができる直売所の開設が求められていた。

経営発展の取組

○ 業務効率化の取組

- 直売所の開設に合わせ、バーコード付きレジスターを導入し、効率的な販売管理が可能になった。



開設された直売所の様子①



開設された直売所の様子②



導入されたレジスター

○ 就業環境の改善

- 従業員直売所開設に合わせて、改装したGPセンターの作業スペースに空調設備を設置。
快適な作業環境を構築でき作業効率が向上した。



空調設備を設置した作業場

取組の効果

- 付加価値額：約7,800万円（継承時） → 約10,000万円（R5年）
- 常時雇用者数：7名（R3年（事業実施前）） → 12名（R5年）



継承者Aさん

- これまでGPセンターでたまごを販売していました。直売所の開設により、お客様が倍以上に増加し連日盛況です。
- 直売所では約20の地元農家の農産物を販売、従業員も増やしています。
- レジスター導入のおかげで、直売所の顧客分析ができるようになりました。顧客ニーズを分析して、直売所の経営に生かしていきます。

事例4：愛知県豊川市 Yさん 【法人/施設花き】

法人化	品種導入	認証取得	データ経営	就業規則	経営管理	就業環境	外部研修	販路拡大	新商品開発	省力化効率化	規格改善	防災減災
-----	------	------	-------	------	------	------	------	------	-------	--------	------	------

経営概要

- ◇ 継承時の年齢 : 33歳
- ◇ 経営規模 : ばら 102a
- ◇ 従業員数 : 役員 3名、常時雇用 12名

継承までの経緯と課題

- ・ 前職を退職した後、農業研修を経て就農。父親の意向を踏まえ令和2年に事業を継承。
- ・ 手間がかかる品種や病気に弱い品種が多く、人手不足で作業が遅れたり、消毒をしても病気が発生して、収量の低下が発生していた。
- ・ パート従業員の雇用契約条件が整理されておらず、休暇等に関する問題が発生していた。

経営発展の取組

○ 新品種導入の取組

- ・ 病気に強い品種、栽培の手間が少ない品種を導入したことで、労働時間や負担の削減を実現。



新品種のバラ①

○ 新たな販路開拓の取組

- ・ 市場への出荷規格外品の販売経路を開拓するため、産直会員に登録し、売上の増加を図った。

○ 就業規則の策定

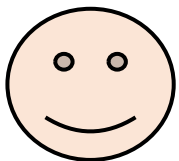
- ・ 社労士と相談し就業規則を策定。有給休暇等に関する条件が整理され、従業員等に対して、トラブルが減少。



新品種のバラ②

取組の効果

- ・ 常時雇用者数 : 8名（R3年（事業実施前）） → 16名（R5年）



継承者Yさん

消毒だけに頼らない病気や害虫の防除方法も取り入れて、労働力の省力化に取り組みたいです。

事例5：北海道沼田町 Sさん 【個人/水田作】

法人化	品種導入	認証取得	データ経営	就業規則	経営管理	就業環境	外部研修	販路拡大	新商品開発	省力化効率化	規格改善	防災減災
-----	------	------	-------	------	------	------	------	------	-------	--------	------	------

経営概要

- ◇ 継承時の年齢 : 28歳
- ◇ 経営規模 : 水稲 1,892a、花卉 65a、そば 18a、野菜 22a
- ◇ 従業員数 : 家族経営 3名

継承までの経緯と課題

- ・ 親の営農への姿を見ながら育ち、高校3年生の頃から将来的な経営継承について考え、20歳の時から農業に従事し、28歳の時に経営を継承。親のように営農していけるのか不安を感じていた。

経営発展の取組

○ 省力化の取組

- ① ブロードキャスターの導入により、広範囲への肥料散布が可能となり、農作業の省力化に繋がった。
- ② サブソイラの導入により、心土破砕が可能となり、透水性・排水性が改善し、品質・収量の向上に繋がった。



肥料・種子の散布に使用するブロードキャスター

○ 経営管理の高度化の取組

- ・ 経営・栽培管理システムの導入で、生産履歴をスマートフォンからでも入力ができ、またウェブマップ上で圃場管理が可能となったことで農業経営の高度化に繋がった。



透水性・排水性向上に使用するサブソイラ

取組の効果

- ・ 経営面積 : 約2,000a (R3年(事業実施前)) → 約2,600a (R5年)



継承者Sさん

- ・ 経営面積の更なる拡大と新しく小麦の栽培を進めます。
- ・ 水稲栽培において、低コスト栽培を進めていきます。

事例6：栃木県大田原市 Mさん 【個人/施設野菜】

法人化	品種導入	認証取得	データ経営	就業規則	経営管理	就業環境	外部研修	販路拡大	新商品開発	省力化効率化	規格改善	防災減災
-----	------	------	-------	------	------	------	------	------	-------	--------	------	------

経営概要

- ◇ 継承時の年齢 : 28歳
- ◇ 経営規模 : いちご 45a、水稲 108a
- ◇ 従業員数 : 常時雇用 7名

継承までの経緯と課題

- ・ 会社員として3年間勤務後に親元に就農。父から栽培技術や経営について学び、令和3年に事業を継承。
- ・ 規模拡大による作業効率の改善、雇用者の労働環境の改善の必要性を感じていた。

経営発展の取組

○ 品質の向上・省力化の取組

- ① 循環扇を設置することで、ハウス内の気温ムラが改善され、いちごの品質向上に繋がった。
- ② 電動噴霧器の導入により、農薬の散布時間が軽減されるとともに、品質の向上にも繋がった。
- ③ タイムレコーダーを用いて、勤怠管理を行うことで、雇用者の退勤管理や給与計算に掛かる作業を削減することができた。



ハウスに設置された循環扇



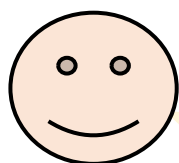
導入された電動噴霧器



使用されているタイムレコーダー

○ 就業環境改善への取組

- ・ いちごのパック詰め作業場に空調設備を設置することで、雇用者の就業環境が改善されるとともに、収穫後の果実の品質保持に繋がった。



継承者Mさん

- ・ 作業効率と品質も向上したことから、いちごの作付面積を60aまで増やしたいと思います。
- ・ 労働環境の整備も進んだことから2023年10月に法人化しました。

事例7：北海道共和町 Uさん 【個人/露地野菜】

法人化	品種導入	認証取得	データ経営	就業規則	経営管理	就業環境	外部研修	販路拡大	新商品開発	省力化効率化	規格改善	防災減災
-----	------	------	-------	------	------	------	------	------	-------	--------	------	------

経営概要

- ◇ 継承時の年齢 : 38歳
- ◇ 経営規模 : メロン 151a、水稻 662a、大豆 208a
- ◇ 従業員数 : 家族経営 4名

継承までの経緯と課題

- ・ 栽培方法や経営について学んだ後、令和4年に父より事業を継承。
- ・ 先代が担っていた現場作業や経営面など様々な業務を行うことになり、技術面での課題に加え、圃場管理や経営管理などの課題に対応するため、農作業や経営の効率化を図る必要があった。
- ・ 顕在化してきている気候変動の影響も考慮した品種の導入が必要だった。

経営発展の取組

○ 省力化・データ管理の取組

- ① 高性能な籾の乾燥機を新たに導入し、乾燥作業時間を大幅に削減。削減された時間をメロンの新品種栽培などに充てることができた。
- ② 経営管理や会計処理用のソフトウェアの導入により、品種や面積の増加に伴い複雑化する管理作業の効率化を実現。



導入した籾の乾燥機



管理作業効率化ソフト



新品種のメロン

○ 新品種の導入

- ・ 気候変動の影響を受けづらく、製品率の向上が見込める新品種のメロンを導入。



継承者Uさん

- ・ 乾燥機の導入で、作業を効率化できたことから、今後は水稻の面積拡大を進めていく予定です。
- ・ 施設野菜のハウスも増設して、付加価値額の更なる向上を目指します。
- ・ 地域でリタイアする農業者の土地を取得して、遊休農地の発生防止に取り組めます。

事例 8 : 福岡県久留米市 Nさん 【個人/露地野菜】

法人化	品種導入	認証取得	データ経営	就業規則	経営管理	就業環境	外部研修	販路拡大	新商品開発	省力化効率化	規格改善	防災減災
-----	------	------	-------	------	------	------	------	------	-------	--------	------	------

経営概要

- ◇ 継承時の年齢 : 35歳
- ◇ 経営規模 : 野菜 200a、水稲 500a
- ◇ 従業員数 : 常時雇用者 3名

継承までの経緯と課題

- ・ 親と農業経営について話をする中で、「どのみちいつか継承するなら、親が健在で自分も若いうちに」と考え、令和 3 年に事業を継承。
- ・ 利益率の向上のため、農業協同組合の共同販売だけではなく、直売所への出荷を増やしたいと考えて、そのために時代にあった商品を生産し、また商品の認知度を向上させる必要があった。

経営発展の取組

○ 新品目の導入・品質向上の取組

- ① 新たな品目としてサツマイモの栽培を開始。
作業の効率化のためマルチシート張りのための管理機を導入。
- ② にんじんの品質の向上のため、洗浄機を導入。



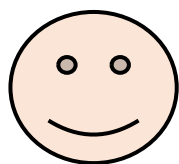
うね整形作業が可能な管理機
(ロータリマルチ)

○ 規格改善の取組

- ・ 消費者の購入のしやすさを考え、ゴボウの梱包袋のデザイン・規格を一新し、購入しやすいサイズ・本数で出荷。認知度が上昇し、出荷先の増加に繋がった。



梱包袋が一新され、販売されているゴボウ



継承者Nさん

- ・ 直売所での販売に力を入れていくため、今後も認知度向上に取り組んでいきます。
- ・ 時代のニーズに合わせ、商品の販売に取り組んで販路の拡大を図っていきたいと思います。

事例 9 : 北海道幕別町 I さん 【個人/畑作】

法人化	品種導入	認証取得	データ経営	就業規則	経営管理	就業環境	外部研修	販路拡大	新商品開発	省力化効率化	規格改善	防災減災
-----	------	------	-------	------	------	------	------	------	-------	--------	------	------

経営概要

- ◇ 継承時の年齢 : 38歳
- ◇ 経営規模 : 小麦 1,187a、馬鈴薯 780a、てん菜 840a、その他 660a
- ◇ 従業員数 : 役員 3名

継承までの経緯と課題

- ・ 短期大学卒業後、20歳の時に親元に就農。
- ・ 父の還暦を機に令和3年に事業を継承。
- ・ 天候に左右されやすい畑作経営で収益を確保するためには、規模拡大等により作業効率を改善する必要があった。
- ・ 規模拡大にあわせて、雇用者の増加を検討する中で、労働環境の改善及び作業安全の確保（災害対策）の必要性を感じた。

経営発展の取組

○ 省力化の取組

- ・ 自動操舵システムの導入により、作業効率が向上。
他の農作業へ時間が割けるようになり、仕事の質が向上した。



自動操舵システム(ディスプレイ)



トラクターに取り付けた
自動操舵システム

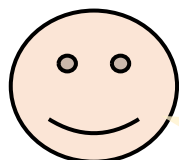


○ 就業環境の改善・防災対策への取組

- ① 農場に移動式の簡易トイレを設置したことで、衛生面の改善が図られ、作業効率も向上した。
- ② 防災への取組として、倉庫に消火器を設置した。



農場に設置した簡易トイレ



作業の効率化が実現したので、今後は経営面積の拡大を検討したいと思います。

事例 10：北海道新十津川町 Tさん 【個人/水田作】

法人化	品種導入	認証取得	データ経営	就業規則	経営管理	就業環境	外部研修	販路拡大	新商品開発	省力化効率化	規格改善	防災減災
-----	------	------	-------	------	------	------	------	------	-------	--------	------	------

経営概要

- ◇ 継承時の年齢 : 35歳
- ◇ 経営規模 : 水稻 1,710a、大豆 163a、小豆 13a、緑肥 58a
- ◇ 従業員数 : 家族経営 4名、臨時雇用者 2名

継承までの経緯と課題

- ・ 地元へのUターンをきっかけに親元に就農し、栽培方法や経営について10年間学び、令和5年1月に父親から経営を継承。
- ・ 有機水田の転作作物として、有機大豆の栽培に取り組んでいたが、規模拡大に向け作業の効率化や、家族以外の労働力の必要性を感じていた。

経営発展の取組

○ 品質向上・省力化の取組

- ① 圃場の排水性改善のため溝堀機を導入により、大豆の生育が改善。
- ② 大豆選別機の導入により、品質の向上及び作業時間の削減を実現。



排水性改善のための溝堀作業

○ データ管理の取組

- ・ 営農管理システムを導入し、作業履歴の確認やコストの把握が容易になった。



導入した大豆選別機

○ 研修への参加

- ・ 農業大学校主催の有機畑作に関する研修に参加し、栽培方法等の知見を習得。

○ 就業規則の策定

- ・ 安心して働ける労働環境整備のため、社労士に相談し、就業規則を策定したことにより、求人サイトへの掲載や繁忙期に人員確保がしやすくなった。



継承者 Tさん

- ・ 水稻、大豆を中心に有機栽培を拡大させていきたいです。
- ・ 地域の離農する農家の農地を引き受け、規模拡大も目指します。

事例 1 1 : 富山県射水市 Mさん 【個人/酪農】

法人化	品種導入	認証取得	データ経営	就業規則	経営管理	就業環境	外部研修	販路拡大	新商品開発	省力化効率化	規格改善	防災減災
-----	------	------	-------	------	------	------	------	------	-------	--------	------	------

経営概要

- ◇ 継承時の年齢 : 53歳
- ◇ 経営規模 : ホルスタイン 22頭
- ◇ 従業員数 : 家族経営 1名

継承までの経緯と課題

- ・ 成人した頃から先代（父親）の手伝いとして酪農に従事。父が体調を崩したことをきっかけに、令和4年に事業を継承。
- ・ 人手不足により、繁殖管理や牛の健康管理に手が回らないことに加え、収益性の確保に課題を感じていた。

経営発展の取組

○ 新部門の導入

- ・ 新たに子牛の生産・販売を開始するため、子牛ケージや給餌バケツを導入し、子牛の飼養環境を整備。



子牛ゲージ・給餌バケツ

○ 省力化及び規格改善の取組

- ① 乳房炎測定器を導入したことで、乳房炎の早期発見が可能になり、生乳の規格改善に繋がった。
- ② 搾乳牛の快適性を高めるため、牛床マットを整備したことで、生乳の品質が向上。
- ③ 給餌作業の効率化のため、飼料運搬車を導入。



牛床マット

○ データ活用 of 取組

- ・ 効率的な繁殖管理のため、監視カメラを導入。
繁殖管理に係る従業員の負担が軽減された。



送風機

○ 就業環境の改善

- ・ 牛舎への送風機を導入により、夏場の作業環境が改善。



継承者Mさん

- ・ 導入したカメラ等の機器を用いて分娩状況の分析を行い、子牛生産を拡大していきます。
- ・ 牛舎の快適性を高め、生乳品質の向上と飼養牛の健康管理による長命連産を図っていきます。
- ・ 飼料に係るコストの低減に向け、飼料を検討していきます。

事例 1 2 : 北海道芽室町 Tさん 【個人/畑作】

法人化	品種導入	認証取得	データ経営	就業規則	経営管理	就業環境	外部研修	販路拡大	新商品開発	省力化効率化	規格改善	防災減災
-----	------	------	-------	------	------	------	------	------	-------	--------	------	------

経営概要

- ◇ 継承時の年齢 : 35歳
- ◇ 経営規模 : 小麦 1,378a、甜菜 596a、大豆 400a、馬鈴薯 361a、グリーンピース 337a、スイートコーン 270a
- ◇ 従業員数 : 家族経営 4名

継承までの経緯と課題

- ・ 継承3年前に父親から経営継承の打診を受け、前年に最終意思確認があり、お互いの意見が合致し、経営を継承した。
- ・ 両親の高齢化により、自身の作業負担が増加してきており、今後の規模拡大を進めていくためには、作業効率の向上を図る必要があった。
- ・ 持続可能な農業につながる基準を取得することで、モチベーションを高めたいと考えていた。

経営発展の取組

○ 省力化・データ管理の取組

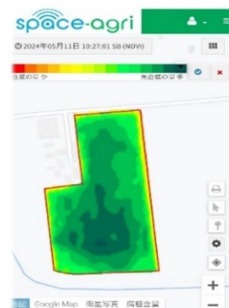
- ① 自動操舵システムの導入により、作業ロスが削減。
- ② 衛星画像（育成マップ）の取得により、圃場の生育状況を把握した上で、GPSを用いた可変施肥が可能となり、育成の均一化が図れた。



自動操舵システム（モニター）

○ 認定取得の取組

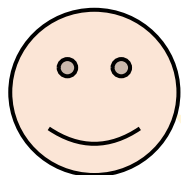
- ・ 持続可能な農業につながるJ-GAP認証を取得。



衛星画像による圃場マッピング

○ 防災対策への取組

- ・ 火災防止のため、乾燥工場に消火設備を設置。



継承者Tさん

- ・ 可能であれば、将来的に近隣の農地を引き受けていきたいです。
- ・ 今後雇用を検討し、規模拡大や作物管理の向上に努めていきたいです。
- ・ 現場で指揮をとりながら、人材をうまく活かせる経営者を目指したいと思っています。

事例 1 3 : 長野県富士見町 Kさん 【個人/施設野菜】

法人化	品種導入	認証取得	データ経営	就業規則	経営管理	就業環境	外部研修	販路拡大	新商品開発	省力化効率化	規格改善	防災減災
-----	------	------	-------	------	------	------	------	------	-------	--------	------	------

経営概要

- ◇ 継承時の年齢 : 36歳
- ◇ 経営規模 : パセリ 67a、水稻 102a
- ◇ 従業員数 : 家族経営 2名

継承までの経緯と課題

- ・ 東京で料理人として働いていたが、次のステージとして、料理人としての経験を活かし、自ら作物を作る仕事をしていきたいと考えていた。
- ・ そのような中、パセリ生産を行ってきた両親が高齢となり、後継者を探していたが、農業を継がせたいという思いが重なり、事業を承継した。
- ・ パセリ生産において異常気象等を起因とした土壌病害が発生していることに加え、売上がパセリのみに依存していることを課題と感じていた。

経営発展の取組

○ データ管理の取組

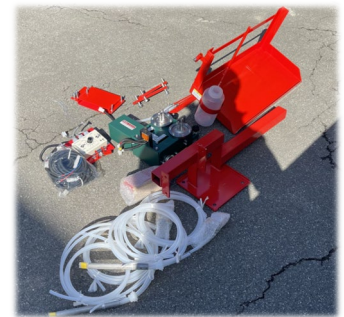
- ・ 土壌病害発生防止のため、天候・気温・農薬・肥料のデータをクラウド上で管理・分析できるシステムを導入。

○ 省力化の取組

- ① 管理機に搭載できる土壌消毒機を導入。手作業で行っていた土壌消毒作業を管理機で行うことが可能になり、消毒作業のムラを削減。
- ② 経営の安定化に向け、新たにブロッコリー栽培を行うため、ロータリー畝立整形機を導入。

○ 就業規則策定の取組

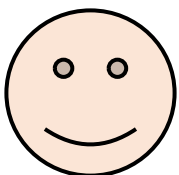
- ・ 将来地域の農業者となる人材を雇用していくため、社労士に相談し、就業規則を策定。



土壌消毒機



ロータリー畝立整形機



継承者 Kさん

- ・ 付加価値額については、野菜価格の高騰も追い風となり、継承時から3.4倍に拡大し、経営面積についても、目標年度よりも2年早く拡大目標を達成ができた。
- ・ 今後も人材育成を行い、付加価値額と経営規模の拡大を進めたい。